

学生と教員で作る文理融合リベラルアーツFD公開フォーラム

文理融合リベラルアーツ科目を受講して ―受講学生の意見―

「色・音・香」系列受講生

上村 紋代 (文教育学部 人文科学科 地理学コース 2 年生)

こんにちは。私は文教育学部人文科学科地理学 2 年の上村紋代です。資料は用意していませんが、よろしく願いいたします。

私が「文理融合リベラルアーツ」で受講したのは、「生命と環境」系列、「色・音・香」系列、「生活世界の安全保障」系列の 3 系列です。受講した科目は「文化と環境」「生物人類学」「基礎生命科学」「宗教と色・音・香」「現代物質文明の履歴」「NPO インターンシップ」で、数としては講義が四つに演習は二つです。

履修した科目を選んだ理由を述べます。「文化と環境」という講義を選んだのは、ピアサポートの先輩から面白かったと教えられたからです。

次に「生物人類学」という講義を選んだのは、1 年の前期に履修した「文化人類学」で、人間の儀式や習慣などを漠然と知っていたものをあらためて見てとらえ直すことができ、とても面白かったのです。名前も関連しているし、授業で先生も「次の生物人類学は面白い」とおっしゃっていたので、同じ授業系列でもあったので選びました。

「基礎生命科学」という実習は、私は高校のときに生物を履修したことはなくて、カエルの解剖など、実験がとにかくやってみたかったので選びました。

「宗教と色・音・香」という授業は、Web シラバスを見て、一般常識としてキリスト教やイスラム教などのほかの宗教について知っておきたかったのと、神道が好きだったので、神道について学びたいと思って選びました。

「現代物質文明の履歴」という講義は、これまで科学にあまり触れてこなかったもので、学んでみたいという気持ちと、またこれもピアサポートの先輩に薦められたので選びました。必要なのは倫理や世界史などの知識で、高校で化学を履修していなくても大丈夫と、オリエンテーションで先生がおっしゃっていたので取ることにしました。

「NPO インターンシップ」という実習では、NPO とインターンシップという言葉の両方にひかれて、もともと NPO に興味があったので取ることにしました。

興味があったものを選んだのは後期に多くて、前期はピアサポートの先輩方による情報を基に時間割を立てていました。

次に授業内容と感想を述べます。「文化と環境」という講義では、まず文化の概念について講義を受けて、次に先進国や発展途上国という区別なしに、人々のさまざまな行動を言葉でとらえ直しました。人々の行動として、「生む」「争う」「育つ」「集う」などがあり、それらの文化をさまざまな視点でとらえることや、自分たちの行動をほかの複数の文化と比べることで客観的に表して、特徴を付けられているのが面白かったです。

「基礎生命科学」では、これは実習なのですが、顕微鏡を用いた植物プランクトンや動物プランクトンの観察をまずして、次にカエルの解剖、カエルの神経を用いた実験、最後に千葉県館山でウニの受精や海の生き物の観察をしました。

「宗教と色・音・香」では、神道に興味があったので受講したのですが、神道を扱った時間が仏教に比べるとわずかだったので少し残念でした。各宗教の定義、聖典、実在観、救済観を知って、各宗教を学ぶことができたように思います。「お年玉」の「玉」が徳の高い人の魂を分けてもらうということなども知って、とても面白かったです。宗教を学問として見るのは難しいというか、専門にしている宗教に引きずりこまれないのかと思ったのですが、客観的な視点で学ぶことができるのだと驚きました。

「現代物質文明の履歴」では、科学がどのように発展してきたのか、どんな時期に法則が生まれたのかという、科学の歴史を学びました。高校ではただ漠然と法則を覚えるだけでしたが、例えばアボガドロの分子説の証明などを知り、面白かったです。授業に出てくるのが知らない名前ばかりでとまどいもあったのですが、科学の歴史を知ることで意外と人間くさい学問のように感じました。

「NPO インターンシップ」という実習では、NPO 法人「エコー」という団体にインターンシップをしに行きました。初めに NPO につ

いての講義を受け、自分たちで架空のNPOを設立し、インターンに行くことでNPOの現実をしっかりと知りました。私のふるさとはNGOやNPO団体が少なかったために、実際に内部で働くことができ、とても新鮮でした。

次に系列を受講してみた意見述べます。一応三つの系列を受講しているのですが、一つの系列に沿おうという意識はありませんでした。しかし、自分の興味が最優先事項でいろいろ取ったのですが、系列は全く意識しなかったわけではなくて、同じ時間帯に設定されている授業で、どちらも面白そうだった場合には、既に取ろうと決めた授業と同じ系列にならないように、系列が偏らないようにしていました。せっかく系列が分かれているので、どの系列も体験してみたいと考えたからです。系列分けされていたので、さまざまな分野の授業を選べたように思います。

2年生では、リベラルアーツと必修がかぶっていたので、あまり取りませんでした。系列としてまとまりがあるように感じる系列と、ないように感じる系列がありました。まとまりがあるように思った系列は、「生命と環境」系列です。それは文化人類学から生物人類学へとつながるように、生命や動物に関する授業が多かったので、系列としてまとまっているように感じました。まとまっていないように感じた系列が、「生活世界の安全保障」系列です。今振り返るとまとまっていないと思うのですが、受講していたときに系列としてのまとまりを意識したことはありませんでした。無理やり系列分けしているようにも感じて、系列に沿っていない授業があればそれでもいいと思うのですが、そうであれば系列分けするという意味がよく分かりません。むしろ先生方の負担となっているようにも感じました。授業でこの授業は、このような系列なので、何か絡めて話をしなければなりませんね」とおっしゃっていたような気がします。私は文教育学部なので、理系のリベラルアーツがあったことで、他学部の授業も受けられるという可能性を知り、その後、生活科学部や理学部の授業も取りやすかったです。他学部の授業を取るきっかけの一つがLAだったようにも思います。

次に、文理融合の視点を学ぶことができたかどうかです。考えが足りないのかもしれないのですが、文理融合の視点というものが、そもそもどのように物事を考えると文理融合していると言えるのか分からず、学ぶことができたとは言えません。また、系列に沿って取ることで、文理融合の視点を得ることができるとおっしゃっていたのですが、そもそも系列どおりに取っていないので、多分視点を学ぶことはできたとはいえないと思います。しかし、どの授業も面白かったです。他学部の先生方が、ほかの学部の学生の方にも分かりやすく行っていて、とても楽しかったです。

最後に、友人にも系列についてどう思ったか聞いてみました。せっかくだから系列で取って賞状をもらいたいという意見がある一方で、系列で賞状をもらってもエントリーシートに書かないし、特に何の意味もないのではという意見もありました。どちらも系列として取ることのできる学業的なメリットよりも、ほかの特典的なものを重視していました。また、系列として取ると、取りたい授業が系列につぶされるのが困るという意見とか。これは私も考えました。意外だったのが、同じ系列の授業を五つ取ると賞状をもらえるというのを知らなかったという意見もありました。

最後に、疑問として、隔年講義を行う意味があまり分かりませんでした。翌年開講される系列の授業の中に取りたいものがあつたので残念だったのを覚えています。しかし、系列別に記載されたリベラルアーツのパンフレットはとても見やすかつたので、授業を選びやすかつたもありました。また、基礎講義との区別があまりつきませんでした。LAの系列分けのどれにも入らなかつた授業が基礎講義としてなつているのかなとも思いました。系列どおりに取らなかつたのですが、さまざまな系列で、どの授業もとても面白かつたのでよかつたと思います。

ありがとうございました(拍手)。